

那須与一伝承館通信〈第16回〉

◎太刀 銘 弘綱

今回は那須与一伝承館が収蔵する資料の中から、太刀銘弘綱を紹介します。

本品は、那須神社に伝わる太刀で、栃木県指定文化財となっており、現在、当館に寄託されています。

長さは八〇・三センチメートル、反り三・六センチメートルで、刀身は鎗造(刃物の刃と峰との間に小高い部分をつけた作り方)、庵棟(刀の背が峰型)で、中心(茎)は丸尻(柄の先端が丸型)で「弘綱」の銘が切られています。太刀は細身で反りが強く、刀身はしなやかな曲線を描いており、鎌倉時代に作られたものとみられます。

この太刀は、那須与一が屋島の戦いで扇の的を射落とすことができたのを感謝して、金丸八幡宮(那須神社)に奉納したものとわれています。また、この時に、与一は土佐杉を用いて八幡宮の社殿を造営したという伝承も残っています。したがって、この太刀は与一と彼の地元・大田原との関係を物語る貴重な資料であるといえます。

現在、この資料は那須与一伝承館で展示されています。ぜひご覧ください。

■問い合わせ

那須与一伝承館

TEL (20) 0220



太刀 銘 弘綱(栃木県指定文化財)
(那須神社所蔵/当館寄託)

彫刻

市内で作られた作品とその作者

周遊 33

このコーナーは、「那須野が原国際彫刻シンポジウム」で公開制作、設置された作品とその作者を連載で紹介し

この作品は、大田原図書館の玄関に向かって左側の植え込みの中にあります。

ラグビーボールのような形の頭部をもつ人型の造形物と、さいころのような形の造形物の2つで



タイムトラベラー
Time Traveler (時間旅行者)
シン ユンスー 申 銀淑 韓国 2002年

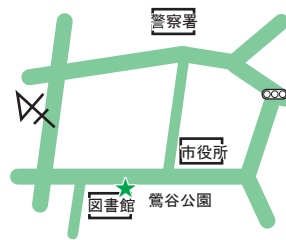
構成された作品です。ラグビーボールにあたる部分には、白と黒のスライスされた御影石が交互に配置されており、さいころも更に小さな白と黒のさいころを27個交互に組み合わせたような

デザインで、どことなく宇宙を彷彿とさせます。

白御影石と黒御影石を交互に接合したデザインは「陰と陽」を表わしており、それは「宇宙の循環を象徴し、「時間と空間を超えて彼岸の世界に向かう内面的な求道の旅行を表現したものである。」と作者はコメントを残しています。

作者は韓国出身の申銀淑氏。梨花大学大学院彫塑科を卒業後2年で韓国芸術大祭において特別賞

設置場所案内図(★印)



を受賞、2002年現在で現代アジア彫刻家協会会員、仁河大学、京畿大学大学院、檀国大学大学院の講師、韓国彫刻家協会副会長など、各方面で活躍をしています。

■問い合わせ

文化振興課文化振興係 TEL (23) 8718